福島県立図書館所蔵
貴重郷土資料探照14

「福島県監獄署写真」

本資料は、21×27cmのモノクロ写真が35×43cmの台紙に貼り付けられたもので(※1)、全13枚が桐箱に納められている。撮影者や撮影年月日については、残念ながら今のところ不明な点が多いが（※2)、箱の蓋の甲には「福島［縣監獄署］寫真」とあり（［ ］内は板が欠けているため判読不能)、左下に「三嶋」と墨書されている。また、蓋の裏側には、「寄贈者　昭和三十一年十二月（総務部より）三島通陽（二階堂誠一氏通じ）」と書かれた貼り紙がある。この三島通陽（みしまみちはる）とは、第5代福島県令・三島通庸（みしまみちつね）（天保6(1835)年～明治21(1888)年）の孫と考えられる。明治30(1897)年に東京で生まれ、昭和40(1965)年に没するまで、貴族院議員・参議院議員・文部政務次官等を務めた他、学習院高等科在学中は小説の執筆をし、後には文藝春秋社監査役、東京宝塚劇場監査役を務めるなど、文化人としても活躍した人物である。また、大正11(1922)年に大日本少年団(現・ボーイスカウト日本連盟)を創設、その総長にも就任している（①～③)。一方、二階堂誠一は、明治24(1891)年に信夫郡庭坂村（現・福島市庭坂）に生まれ、各地の小学校長を歴任するなど県内の初等教育に貢献し、昭和44(1969)年に没するまで県ボーイスカウト連盟長を務めた人物と思われる(④⑤)。詳細な経緯は不明であるが、三島家で所蔵していた本資料を、通陽が、ボーイスカウト事業等でつながりのあった二階堂を通して県に寄贈したものと推測される。

さて写真の内容であるが、箱内に添付の手書きの目録（いつ誰によって作成されたものかは不明）および台紙裏の記載によれば、「一、福島縣監獄本署表門ヨリ其全体ヲ望ム」「二、福島縣監獄署全圖」「三、福島縣監獄署既決監表面之圖」「四、福島縣監獄署既決監背面之圖」「五、福島縣監獄署病監之圖」「六、福島縣監獄署女監」「七、福島縣監獄署事務所表面之圖」「八、信夫山公園地ヨリ福島縣監獄署ヲ望ムノ圖」「九、信夫橋（全景)」「十、信夫橋（設計圖)」「十一、栃木監獄（正面全景)」「十二、栃木監獄（側面全景)」「十三、栃木監獄（側面全景)」となっている（※3)。福島県監獄署以外を写したものも含まれているわけだが、紙幅の都合上、今回そちらには詳しくは触れない。様々な角度から写された福島県監獄署は、白い壁と塔を持ち、洋風の味わいもあり、一見どこかのモダンな邸宅のように見えなくもない。しかし、張り巡らされた高い塀、山裾の田地に他から隔絶されたように佇む姿は、この建物が監獄であることを見る者に再認識させる。

ちなみに福島県監獄署とは、現在の福島刑務所の前身である。福島藩政時代に信夫郡越ノ浜村（腰浜村とも。現・福島市腰浜町）にあり、町奉行の管轄下にあった牢屋が、明治4(1871)年の農民の暴動によって焼失したため、同年福島町南裏(同じく腰浜町)の官有地に新築、「徒場囚獄」と改称された。それがさらに明治6(1873)年「懲役場」、明治9(1876)年「懲役場囚獄」のち「福島縣監獄」、そして明治10(1877)年4月に「福島縣監獄署」となる。その後は明治15(1882)年に信夫山麓の福島町狐塚（現・

福島市狐塚）へ移転、明治 36(1903)年に「福島監獄」、大正 11(1922)年に「福島刑務所」という名称の変遷を経て、昭和 26(1951)年に福島市南沢又へ 4 度目の移転をし、現在に至っている（詳細は⑥～⑧）。

「明治十五年に至り、時の縣令三島通庸、地を信夫山麓にトし、移轉改築し十字形の既決監を新築翌十六年女監炊事室石垣等の大營繕を行ひしが…」（⑦）とあるのによれば、少なくとも「十字形の既決監」が写っている写真一・二・三・四・八は明治 15(1882)年以降に撮影されたものと考えられる。また、六の女監は屋根瓦等の修繕中あるいは修繕直後と見られることや、七の事務所の周辺もある程度の規模の工事中と見られることから、もしこれが「大營繕」にあたるとすれば、明治 16(1883)年以降の撮影と言えるだろう。しかし、これ以上の手掛かりは今はない。

以上、不明な点は多いが、かつての福島県監獄署の姿を今そして後世に伝える、貴重な写真資料であることは疑いない。2008 年に CD-ROM 化されており、当館内での閲覧の他、貸出も可能となっている。機会があれば、ぜひご覧いただきたい。

〈地域資料チーム：河野まきこ〉

※1　中には若干大きさの異なるものもある。

※2　「十一、栃木監獄（正面全景）」の台紙裏には「大日本帝国／紀元二千五百三十九年／明治十二年七月二十三日／日光山法願寺境内ニ於テ／栃木縣下宇都宮／上埜文七郎謹寫」（／は改行）との記載があり、撮影日・撮影者がわかる。十二・十三にもこれと同様と思われる記載があるが、かなり文字が薄くなっているため肉眼では検証が困難である。⑩の参考資料の一覧に本資料が挙げられているが、そこでは一・九・十の撮影者が丸木利陽、それ以外が上野（埜）文七郎によるものではないかとされている。

※3　十一～十三については、手書き目録によれば栃木監獄とあり、台紙裏も同様であるが、栃木県庁との説もある。福島県監獄署の台紙裏の記載が墨書であるのに対してこの記載は鉛筆書きであり、特に十一はその記載が訂正され、横に「宇都宮県庁」と鉛筆書きされている。また、⑪巻頭図版に「Ⅲ 県庁（宇都宮町）宮内庁書陵部図書室所蔵」とある写真と同一の建物と見られることから、明治 17(1884)年に栃木町から宇都宮町に移転新築され、明治 21(1888)年に火災で焼失した県庁である可能性の方が高いのではないかと思う(ただしそうなると、※2 の明治 12 年撮影という記載と若干のズレが生ずる。この辺りは、さらなる検証が必要であろう)。いずれにせよ、時の栃木県令が三島通庸であるから(明治 16(1883)年当時、福島県令と兼任)、これらの写真が福島県監獄署の写真と同一の箱に収められ、三島家に所蔵されていたというのも脈絡のないことではない。

参考文献

①『新潮日本人名辞典』新潮社辞典編集部編，1991

②『「現代日本」朝日人物事典』朝日新聞社編，1990

③『日本近現代人物履歴事典』秦郁彦編，2002

④『福島県史』第 22 巻 各論編 8 人物，福島県，1972

⑤『道心堅固　ボーイスカウト福島連盟 50 年史』ボーイスカウト福島連盟 50 年史編纂特別委員会編，2000

⑥『福島刑務所沿革史』福島刑務所編，1968

⑦『福島市誌』福島市役所編・発行，1942

⑧『福島大百科事典』福島民報社福島大百科事典発行本部編，1980

⑨『福島県警察史』第 1 巻，福島県警察史編さん委員会編，1980

⑩『高橋由一　風景への挑戦』栃木県立美術館編，1987

⑪『栃木県史』史料編 近現代 1，栃木県史編さん委員会編，1976

⑫『栃木県の近代化遺産』栃木県教育委員会事務局文化財課編・発行，2003